

- | | |
|-------------|--|
| 1 種 別 | 有形文化財（歴史資料） |
| 2 名称及び員数 | 鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写及び下絵 77点（内訳 略） |
| 3 材質・形状 | 楮紙、雁皮紙・仏表装、仮表装、裂表装、裏打ち |
| 4 寸 法 | 高さ301.2cm 幅251.0cm、高さ301.8cm 幅149.6cm ほか |
| 5 所 在 地 | 大仙市太田町太田字新田田尻3番4 太田文化プラザ |
| 6 所 有 者 | 大仙市 |
| 7 管 理 責 任 者 | 大仙市教育委員会 |
| 8 説 明 | |

鈴木空如、本名久治は明治6年（1873）に仙北郡長信田村（現大仙市太田町）に生まれた。日清戦争従軍後、明治31年（1898）に東京美術学校日本画科選科に入学、明治37年（1904）に研究科を修了した。在学中に、山名貫義と大村西崖の薫陶を受けた。

空如は、生涯に法隆寺金堂壁画の模写を3回行った。昭和11年（1936）に3回目の模写を完成させ、生家に残した。そして平成9年（1997）、この3回目模写が下絵と共に、空如生家から太田町に寄贈された。

なお、1回目の模写は大正11年（1922）に完成し、個人所蔵で神奈川県にある。また、2回目模写は昭和7年（1932）に完成し、平木浮世絵財団が所蔵し東京国立博物館に寄託している。

1・2回目模写に比べて3回目模写は、原画の剥落部分が目立たないように色をつけるなど、鑑賞を意図した仏画となっている。下絵は、模写を完成させるための参考資料であり、壁画の細部がわかりやすく描かれている。

法隆寺金堂壁画の模写は明治17年の桜井香雲に始まる。空如はそれに触発されて模写を行う。その後、本格的に取り組まれるのは昭和15年だが戦争のために完了せず、戦後昭和22年からあらためて行われるが、法隆寺金堂は昭和24年（1949）に失火により焼損し模写を完成できなかった。空如の模写は、昭和40年代の復元までの空白期間を埋める点、また劣化が進む壁画を遺した点で貴重な作品群である。

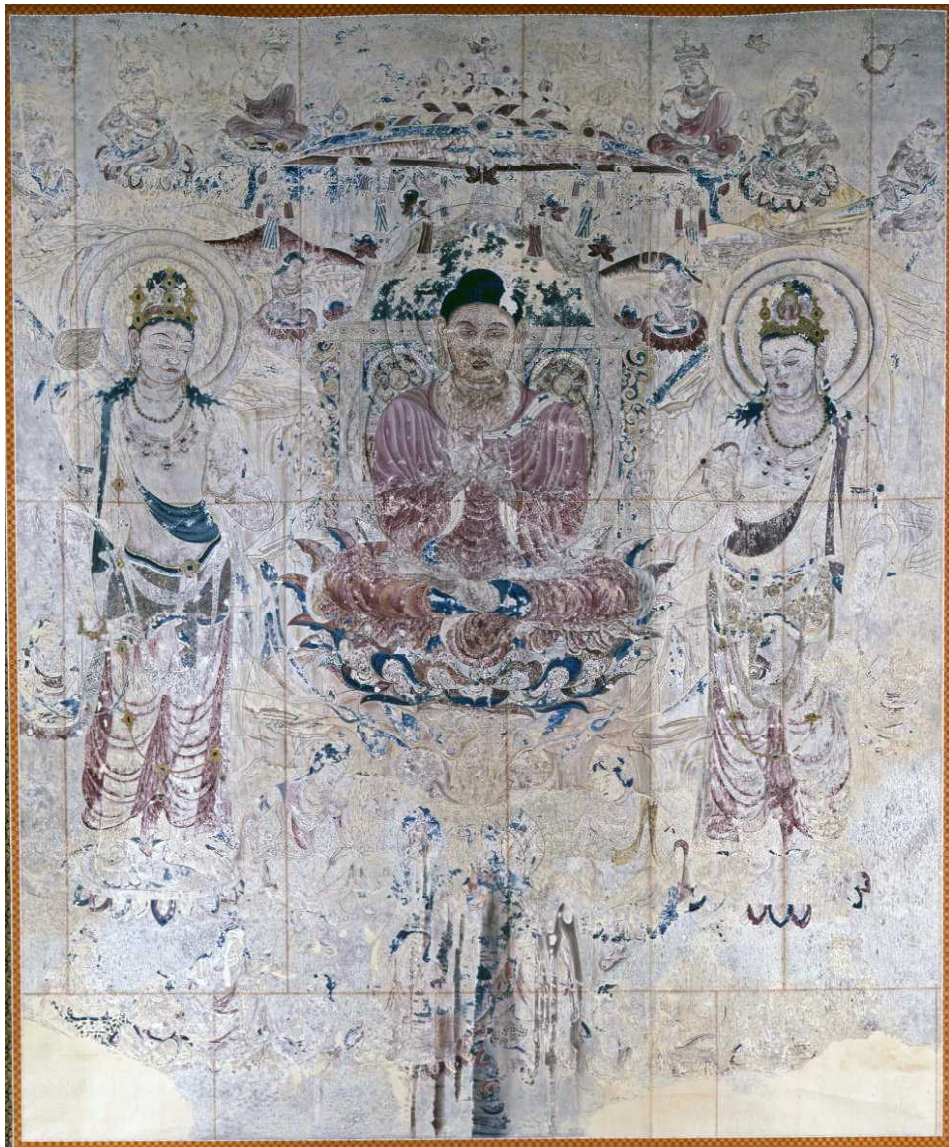
参考 昭和51年（1976）11月1日 太田町指定文化財（現大仙市指定）「法隆寺金堂壁画模写 12面」

参考文献

大岸佐吉『信仰の仏画師 鈴木空如』春秋社 平成5年（1993）7月20日

佐々木直子「鈴木空如 人と芸術」『法隆寺壁画模写に一生を捧げた画家 鈴木空如展—悠久の時をこえて—』秋田県立近代美術館 4～16頁 平成14年（2002）3月

大仙市教育委員会編『鈴木空如資料調査研究事業報告書Ⅰ』平成22年（2010）3月31日



6号壁



下絵



山中羅漢図